

小児一次救急医療に関する課題

① 急患診療センター及び急患診療所における患者数の増加への対応

- ・小児患者数は年々増加傾向にあり、待ち時間が長時間化するとともに、医師一人あたりの診療件数が増加し、医師の疲弊につながっている。

② 急患診療所に出務する内科・小児科併診医師の確保

- ・内科医の専門分化が進み、小児科を併科標榜する内科医の減少や高齢化により、出務医師の確保が困難となっている。

③ 休日の小児科二次病床の確保

- ・休日、GW、年末年始において、現在確保している小児科二次病院のベッド数（3施設各1床）を上回る二次搬送が常態化しており、二次搬送先の増設が必要となっている。

④ 相談窓口の周知・拡充

- ・不要・不急の受診者を減らすため、診療の緊急性等の相談に応じる相談窓口の拡充が必要となっている。また、既存の相談窓口（#8000等）のより一層の周知が必要である。

⑤ 保護者への啓発

- ・保護者の育児不安の解消や、小児救急医療機関への適切な受診を促すため、かかりつけ医の重要性や子どもが病気になったときの適切な対応など、救急医療に関する知識の普及啓発を図る必要がある。